

# けんしゅうしましよ

8号

R7.2.10

文責 北垣

道徳 主題名 人を思いやる心  
中心内容項目 A-5 親切、思いやり  
資料名 六べえじいとちよ  
授業者 藤崎 まゆみ

思いやりの「心」をもつことから1歩進んで、親切的な「行動」をしようという態度の育成をねらいとした藤崎先生の授業。学びに向かう姿勢の整った子ども達と、安心感のある授業展開がとても印象的でした。事後研では「少人数だからこそ」という、3年生ならではのキーワードも話題にのぼり、授業づくりの視点を広げる学び多い時間となりました。

授業を公開してくださった藤崎先生、ありがとうございました。

- ・学習規律がしっかり定着していることや、藤崎先生が常に肯定的な声掛けをすることで、安心できる学習環境が整っていた。
- ・どの発問も丁寧で、子どもたちが考えやすいと感じた。
- ・子どもたちの考えに寄り添っている姿が素敵だった。
- ・導入では、アンケートを効果的に活用し課題への流れが自然にできていた。
- ・「みんなだったらどうする？」の問いかけにより、児童が自分事として捉えることができていた。
- ・六べえじいの生き方等を踏まえてからの問いへの流れがよかった。
- ・“村人とちよのちがい”についての発問がとてもよかったので、もう少し時間を割くとより児童の思考が深まっていくように思えた。
- ・児童のつぶやき(反応)の「できない」「見守ることも親切」などを活かし子ども同士のつながりをつくることでより主体的な学びが展開できるのではないか。
- ・意図的な問い返して共通解の3本柱にスムーズに導いていた。
- ・2つの問いから児童が選択して考えられたのがよかった。さらに、3つ目として“六べえじいの気持ち”を取り上げてもよかったかもしれない。
- ・ちよとの交流を通して変化した六べえじいの気持ちや様子に注目することで、ちよの行動(親切)の価値に気づかせる方法もあったかもしれない。
- ・六べえじいの顔が教科書では怒っており、板書では笑顔だった。どちらがよかったのだろうと疑問に思った。
- ・少人数だからこそ“先生と子ども”ではなく“子ども同士”がつながる時間がより増やせるとよかった。
- ・少人数を活かして、児童同士が関わりやすいような机配置の工夫もできるかもしれない。



## 【今後の予定】

- ・2月17日(月)政野T授業研 5校時
- ・3月 3日(月)研修日(年度末反省)
- ・3月 4日(火)教師力アップセミナー(オンライン)

教職員アンケート  
×切14日です。  
ご協力をお願いします!